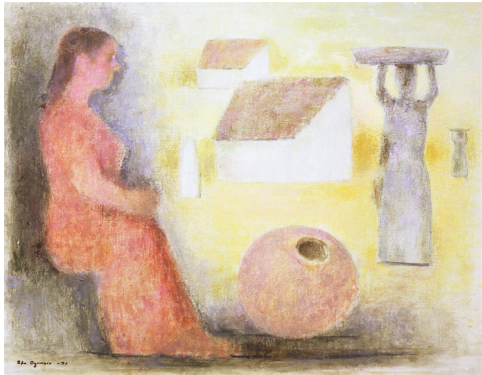


感動の場

一点の街

1991 年 小川原 脩 画



現在開催中の小川原脩展「アジアの大地」の会場は、淡く明るい黄色の作品に囲まれ、穏やかな空間を作り出しています。この色は「ネーポリスイエロー」、ネーポリスとはイタリア南部の都市ナポリの英語名で、近郊のベスピオス山で産出した鉱物から作られた絵の具といわれており、ナポリの黄色として中世から知られていました。少しくすみのある、やや赤みがかった黄色です。

1986 年、インド北部・ウッタルプラデシュ州のムザファルナガルに小川原脩は滞在しました。太陽の光がふりそそぐ緑いっぱいの木々に、孔雀、リス、小鳥などの小動物が行き来し、花々は咲き誇る。その豊かな光景に「色でいうならネーポリスイエローだ。温和で明るくて派手ではないが楽しさにあふれた私の好きな色だ」と述べています。また、画家の心に刻まれたインドでのモチーフは、球形の壺、台形に白い壁の家、座る女性などがあり、晩年にかけて、さまざまに組み合わせて作品が描かれました。

本作でも、家々や道行く人を柔らかな色彩が包み込んでいます。対して、座る人物や壺の周囲を覆う深い影が印象的で、隠された物語が浮かんでくるようです。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

かわはぎき皮剥器

この民具は皮剥器といい、伐採した樹木の皮（樹皮）を剥がすための道具です。形は野菜の皮むきに使うピーラーを大きくしたようなもので、丸太の端に刃の部分而当てて引っ張りながら使うことで樹皮を剥ぎます。そのため、刃が直線的ではなく、わずかに弧になっているのが特徴です。中には、使う人が力を入れやすいように、柄が曲がっているものや、手元がバットのように細くなっているものなどもあります。

昔、皮剥器は稲を干す稲架掛けや野菜作りの支柱、建物の部材、冬囲いの支柱といった生活に欠かせないものを作るため、山から伐り出した樹木の樹皮を剥いで長い丸棒に加工するときに使われました。また木材の樹皮を剥がすことは昆虫の食害などを防ぐ効果もありました。

かつて手間をかけて作っていた道具も、今ではホームセンターに行くと木やプラスチック、金属などさまざまな素材のものが、出来上がった状態で手に入る時代になりました。

現在、風土館 1 階で「エントランス展示『風土館ではこんな仕事をしています』」を開催しています。そこでは民具の整理作業の様子や台帳整理といった博物館の仕事について、皮剥器の整理作業を例に展示しています。ぜひ見学して皆さんの思い出も教えていただけるとうれしいです。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）



▲皮剥器（上）、刃の部分の拡大（下）

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

小川原脩展「アジアの大地」

中国桂林・チベット・インドで出会った、悠々とした大地、人と動物たちが繰り広げる豊かな時間。小川原脩が描くぬくもりあふれる絵画世界をご覧ください。

会期：開催中～7 月 2 日(日)

■第 2 展示室

小川原脩セレクション「戦地スケッチ展」

従軍画家として戦地へ赴くなどした小川原脩の戦争体験を当時のスケッチから検証する展覧会です。

会期：開催中～4 月 16 日(日)

小川原脩・穂井田日出麿 二人展「生きる」

穂井田日出麿（古平町在住）は北漁場で働く「はずし娘」を長年題材とし、厳しい自然のなか生きる姿を描き続けています。小川原脩の作品とともに、「生きる」ことへの想いを絵画へと込めた画家二人の作品をご覧ください。

会期：4 月 22 日(土)～7 月 2 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ギャラリー・トーク

小川原脩・穂井田日出麿 二人展「生きる」

小川原脩と穂井田日出麿、二人の画家の作品のみどころを学芸員が解説します。

日時：4 月 22 日(土) 14 時～14 時 30 分 会場：第 2 展示室（無料） お話：沼田絵美（学芸員）

■土曜サロン

京都逍遙①「鄙をたのしむ 西山・山科」（前半）

苔に彩られた西芳寺から雁行型の書院が美しい桂離宮、小野小町の随心院までを巡ります。

日時：4 月 15 日(土) 14 時～14 時 45 分 会場：映像ルーム（無料） お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

令和5年度 展覧会スケジュール ※展覧会の会期・内容は変更になる可能性があります

第 1 展示室	第 2 展示室
小川原脩展「アジアの大地」 3 月 4 日(土)～7 月 2 日(日)	小川原脩・穂井田日出麿 二人展「生きる」 4 月 22 日(土)～7 月 2 日(日)
しりべしミュージアムロード共同展 7 月 15 日(土)～9 月 24 日(日)	岸本春代 絵画展 7 月 15 日(土)～9 月 24 日(日)
第 65 回麓彩会展 10 月 7 日(土)～1 月 14 日(日)	小川原脩展「小川原脩と麓彩会展」 10 月 7 日(土)～2 月 12 日（月・祝）
小川原脩展「感動の場一点」 1 月 20 日(土)～5 月中旬	おしゃべり美術館 2024 2 月 17 日(土)～4 月中旬

倶知安風土館のお知らせ

■エントランス展示

①「風土館ではこんな仕事をしています」展 ※展示内容は随時変更します

博物館は普段、どんな仕事をしているのでしょうか。博物館の役割や資料の管理方法、整理方法、調査成果などを紹介します。今回は昔の暮らしの道具「皮剥器」にフォーカスを当てています。

②「おや？このザリガニ、よく見たら…」展（蘭越町貝の館共同事業）

今現在、在来種であるニホンザリガニはさまざまな問題によって生息が危ぶまれています。本展示では、国内に生息する 3 種のザリガニ（ニホン、アメリカ、ウチダ）の区別の仕方や、それぞれを取り巻く問題について紹介します。展示資料は、蘭越町貝の館との共同研究で作製したザリガニ標本や、アメリカザリガニの生体を予定しています。

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円（400 円）
高校生 300 円（200 円）
小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円（100 円）
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～17 時
入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

4 月の休館日 毎週火曜日、美術館は 17 日

（月）～21 日(金)(展示替えのため)

展覧会初日（4 月 22 日(土)）は美術館観覧無料

こどもの日（5 月 5 日(金)）は小中学生美術館観覧無料